

丈夫がいね

多くの被災者が身を寄せ合う避難所は気温も低く、生活が長引けば長引くほど風邪やインフルエンザなどの感染症にかかるリスクが高くなる。特に中高年者は免疫力が弱っているため感染する可能性が大きく、治りも悪い。金大大学院医学系研究科の市村宏教授(ウイルス感染症制御学)は「災害時の感染症対策は、限られた資源をうまくやりくりできているかがポイント」と指摘する。

・手の指を清潔に
例えば、風邪やインフ

被災したら② 感染症

ルエンザの予防として平時なら真っ先に挙げられる「うがい」はどつどろうか。水道が止まり、救援物資として寄せられた水が頼りの多くの避難所

限られた資源有効に

では、うがいに大量の水を使うのは得策でない。「飲用や手洗い用に優先的に確保すべきだ」と市村教授は話す。

時期や場所によって、手洗いもままならないほど水が貴重な状況も



マスクを着けて避難所生活を送る高齢者
—15日、宮城県石巻市

大いにあり得る。市村教授は「ウェットティッシュか、なければティッシュ

った人は、不織布製のサージカルマスクの着用が必須。数に余裕があるなら、患者の近くにいる人やお年寄りから順に着用しよう。

水とトイレが不足した避難所の環境では、ウイルスなどによる下痢の流行も懸念される。下痢になった場合は脱水症状に警戒し、できる限

て厄介なのがノロウイルスだ。吐瀉物や便を処理する際はゴム手袋、マスクを着用し、処理した汚物が付いた布はビニール袋に入れて密封して捨てる。

さらに、汚れた場所はしっかり消毒する。消毒用の薬は、塩素系消毒液を500ミリリットル入りペットボトルのキャップに半分入れ、500ミリの水と混ぜて作る。

第32部
老いを前に
番外編

ど、手で直接食べる食事が多くなる避難所生活では、手に付いたウイルスが口に入る頻度も高くなる。手指を清潔に保つのは平時にも増して大事なのだ。

インフルエンザにかか

り水分を取ろう。特に用心するべきは高齢者だ。

・確実にノロ対策
下痢を起すウイルスの中でも感染力が強く、避難所で流行すると極め

「丈夫がいね」第1〜29部発売中。お問い合わせは北國新聞社 出版局 076(26)035887